

伝える！ つなげる！ ゴースマイル！



小宮の丘

教員日誌

学校 HP : <http://hachioji-school.ed.jp/komye/>

〇かしこい子 〇たくましい子 〇ゆたかな子 〇みんなと仲よく生きぬく子

令和7年度学校だより
八王子市立小宮小学校
発行責任者
校長 山北 雅史
令和7年12月1日発行
第9号

意味をもって生きること

校長 山北 雅史

今週末に文化祭の本番を控えた火曜日の夕方、この原稿に向かっています。各学年の練習風景を見るたびに、子どもたちのがんばっている姿に触れて、本当にうれしくなります。また、子どもたちとともに舞台づくりに懸命になっている先生たちを見て、ふと自分自身の担任時代のことが思い出されます。「大変だったけれどすごく楽しかったなあ」という思いが浮かんできます。でも同時に、少しばかり寂しい思い出も頭をよぎります。それは一人の先輩教師のことです。

その人は、私が新規採用教員として着任した時、他地区から2校目として転勤してきた男の先生でした。私より10歳年上でした。若手が少なく、ずっと年上のベテランの教員ばかりいるその学校の中で、私からすればその人は、手の届かない大先輩ではなく、身近な兄貴分と勝手に思っていました。学級経営のこと、授業づくりのこと、宿泊行事のこと、その人は私にいろいろなことを教えてくれました。成功談ばかりでなく、たくさん失敗談を話してくれました。気を許した私の、若さゆえの不平不満まで真剣に受け止めて助言をしてくれました。決して上からではなく、経験のない私と同じ土俵に立って「がんばれば自分にもできるかもしれない」と思わせてくれました。私は学校の中で、いつもその人の姿を見ながら、自分の足りないところを探して、追いつきたいと思っていました。そして劇づくりの楽しさを教えてくれたのもその人でした。「山北さん、こんな台本あるよ」と教えてくれた劇こそ、実は今年度小宮小の6年生たちが取り組んでいる劇そのものでした。6年生の担任の先生方が「これをやります」と言ってきたとき、私は本当にうれしかったのです。

「意味をもって生きること、思い切り生きること。それが人間なのよ」・・・このセリフいいよねえと笑顔で話しかける先輩の顔は今でも忘れられません。先輩が教えてくれた台本は、その後自分なりのアレンジを加えながら3回も使わせてもらうことになりました。別々の学校へ転勤した後も折に触れて、互いの近況報告をしたりしていましたが、ある日突然、体調を悪くしたという電話をもらい、その後3年ほどしてから、その人は50歳という若さで亡くなりました。もう20年も前のことです。

「山北さん、やっぱり劇っていいよねえ」子どもたちの演じる姿を見つめながら、私の胸の中にはあの先輩の声がよみがえります。

「先輩、意味をもって生きるって難しいけど、少しだけわかってきましたよ」

先輩が亡くなった歳をすっかり超えた今でも、私は一人の先輩の姿を追いかけているような気がしています。

